

携帯電話を利用した牛の分娩看視

(県畜産試験場 研究員 Y.Y)

酪農家や肉牛繁殖農家にとって、子牛生産は経営の要であり、分娩時の事故を防止するために、分娩間近の牛の観察を怠ることはできない。

近年、牛舎の団地化が進み、自宅から離れている牛舎が多く、夜間は特に看視不足となる時もある。

そこで最近発売された、テレビ電話機能付き携帯電話とカード型携帯端末を組み合わせたライブカメラを、分娩看視に利用してみた準備は非常に簡単で、携帯電話等の契約が終わっていれば、分娩房全体を映し出せる位置にカメラを設置し、AC電源を接続するのみである。その後携帯電話から、ライブカメラに割り当てられた番号にダイヤルすれば、動画を見ることが出来る。



携帯電話の電波が届くところなら、どこからでも牛の様子が看視できる。

多少画面が小さく見にくいものの、牛の行動や分娩兆候は十分に観察することが出来る。

費用は、携帯電話の通信費と基本料金、ライブカメラ(約1万円)とカード端末の基本料金が必要となる。

従来一部で利用されていたWEBカメラを利用するものと比較して、常時接続のインターネット環境やサーバーを必要とせず、専門的な知識や高額な費用も必要としない。

ただし夜間は、40ワットの蛍光灯程度の照明が常時点灯である必要がある。これについては、ダイヤル接続時に、照明機器等の電源が入る様な機能を付加するような改良が必要と思われた。



最近は、ゆとりのある生活が求められ、労力の軽減や余暇の充実に対する関心が高い。とは言え、夜中にもう一度牛舎を見回っておけば防げる事故があることも事実である。このような時に、携帯電話を利用し、牛の分娩看視を行うことによって、安心して休養がとれる。